

学生自治を奪らせ、すべての原発止めよう！



「命よりも経済」の世界を変えよう！
主人公はわたしたち学生だ！

「軍事政権を打倒せよ！」—エジプトは2月革命にもかかわらず、物価が上昇し、窮乏が拡大。革命を篡奪した軍最高評議会への怒りがついに大爆発し、タハリール広場占拠の復活から、数十万人の大デモと軍との衝突に発展している。その先頭は労働者と青年だ。エジプトの労働者は「この革命がどうなるか誰も分からないし、きっと長く続く闘いの始まりにすぎない。確かなことは1月の時よりもわれわれははるかに怒っているということだ」



エジプトで軍政打倒の「第2革命」を掲げて青年・学生が再び大闘争に！

「12/10 がんばろう！
さようなら原発1000万署名」

日時：12月10日（土）

13：30～

開場：日比谷野外音楽堂

※集会後、パレード



と語っている。

日本でも、野田政権は「1%」の利害を「国益」と言い張って、原発再稼動・輸出とTPP（環太平洋経済連携協定）へと突き進み、賃下げ、首切り、非正規職拡大、農漁業、医療の破壊へと突き進んでいる。絶対に許せない！

「1%」のために「99%」が踏みにじられ「命よりも経済」が優先される社会はもう終わりにしよう！

12月10日、世界中で立ち上がった青年・学生と団結し、原発再稼動阻止の大デモに立ち上がろう！



革命の拠点・タハリール広場を再度埋め尽くす大群衆

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 <http://www.zengakuren.jp/> mail_cn001@zengakuren.jp

原発御用学者に京大生が大反撃！



10月1日、京大原子炉実験所は放射線医学総合研究所（原発推進の研究機関）から「年間100ミシーベルトまでなら被曝しても大丈夫」という大うそをつく御用学者・島田義也を講師に呼んで、「一般公開」の講演企画をおこなった。

「放射能は安全」と宣伝し、原発政策に加担する原子炉実

験所を止め、社会を変える力は学生の団結だ。世界中で学生が立ち上がる中、京都大学の学生たちは原発御用学者と真っ向から対決し、決定的な勝利を切り開いた。

験所の暴挙に対して京大生は「科学の名で人殺しに加担するな」と中止を求める申し入れとデモをおこなった。しかし、原子炉実験所は学生の意見を踏みにじって開催を強行し、さらに「反対する人は講演には参加させない」と、大学構内に警察まで導入して、学生達を排除した。

そこに示されているのは、あらかじめ批判を排除した「やらせ」でないと成り立たない原発御用学者の醜悪な正体だ！ こんなものは学問でも何でもなし！

学生自治とは相容れない！



フクシマの怒りと結び、反原発団交に勝利！

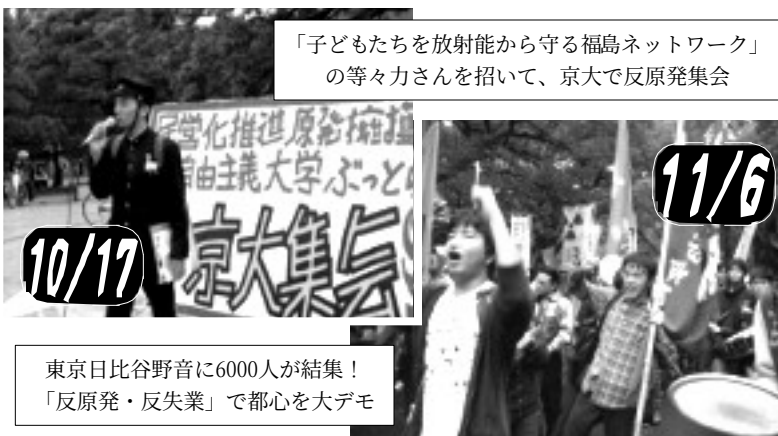
原子炉実験所の御用学者講演会と反対派排除に対して、京大生はキャンパスから怒りの大反撃を開始。

クラスでは原発の是非を問う討論が沸き起こり、松本総長が関西電力の元社長・藤洋作（04年美浜原発事故で5人の労働者を殺し、引責辞任）を京大の経営協議会委員に就かせ、関経連（関電が会長）と一体で「原発再稼働」の要望を出していることへの怒りが高まり、多くのクラスで①原発再稼働

反対②藤洋作追放の決議が可決されていった。

キャンパスから湧き上がる学生の怒りに圧され、11月10日には副学長と原子炉実験所所長、副所長が交渉の場に引きずり出されてきた。この団交で

最初は居丈高に居直っていた所長達を6時間にわたって徹底追及。10・1講演での対応を全面謝罪させるに至り、さらに、「100ミシーベルト以下の危険性を示すデータはない」という御用学者の大うそに、実際のデータを示して反論し追及。驚くことに、御用学者どもは、危険性を示すデータの存在を知らながら「無い」と言っていたということが明らかになった。まさに御用学者は「科学」を語って人殺しをしている！ 11・10反原発団交は、学生自治の力で御用学者の犯罪を暴ききり、徹底的に粉碎する大勝利を実現した。



東京日比谷野音に6000人が結集！
「反原発・反失業」で都心で大デモ

反原発・大学奪還！学生自治会復権へ！

11/10反原発団交で明らかになったのは、御用学者たちは原発を維持するために平気でウソをついているということと、この御用学者に団結した学生は勝利できるということだ。

学生が団結し声を上げれば、御用学者の策動は粉碎され、原発擁護のデマはひっくり返すことができる。一切は、学生が立ち上がるか否かの問題だ。そして、その核心は学生自治会の復権にかかっている。京大でも関電から毎年5千万円のカネが流れこみ、経営協議会を関電幹部が牛耳っているが、それを決定した松本総長は学生の前に出てこないで、「自治会が要望していないから」という理由で逃げ回っている。

要するに大学当局は学生自治会が十分に機能していないことにつけこんで「学生も認めている」と原発政策を推進しているのだ。だからこそ学生の意思を体现し、教育と社会に責

任取る団結体として自治会が機能するならば、「原子力村」の一角である大学を突き崩していくことは絶対にできる。

このことをハッキリさせたのが京大生たちの反原発・大学奪還の闘いだ。闘う京大生は、自らの闘いの地平に確信を深め、いよいよ原発推進の松本総長を打倒する全学自治の復権へと本格的に突き進んでいる。

全国大学で学生自治会を甦らせ、御用学者どもから大学を奪いかえそう！ とりわけ「放射能はニコニコしてればよってこない」と言い放った山下俊一（福島県立医大副学長）らを福島からたたき出す闘いに、全国学生の力を結集させよう！

12月10日は反原発大デモを打ち抜き、学生自治会建設に向けて、全国学生の団結を勝ち取る決定的な行動だ。

法大生、全国の学友は12・10日比谷に大結集しよう！